



日本のAO入試と 九州大学の事例

(AO Examinations in Japan and an example of Kyushu University)

林 篤裕 (Atsuhiro Hayashi)

柴田 洋三郎 (Yosaburo Shibata)

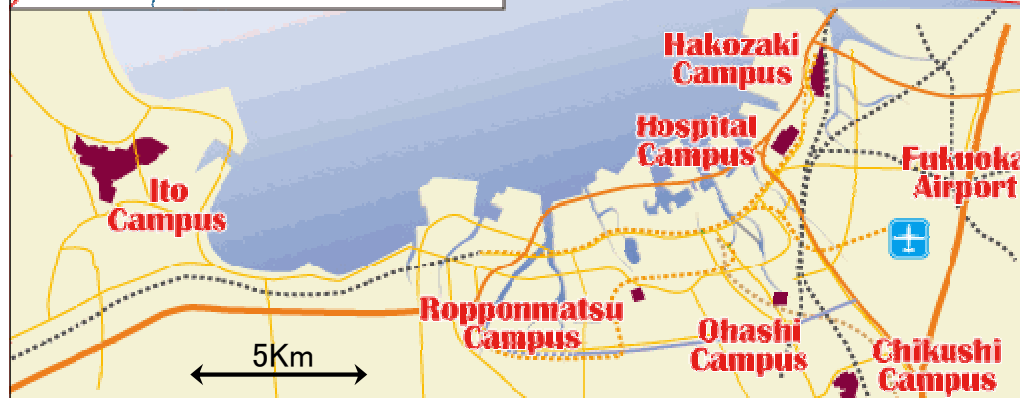
武谷 峻一 (Shun-ichi Takeya)

(九州大学: Kyushu University)

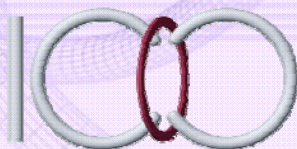
e-mail: hayashi@rche.kyushu-u.ac.jp



Location of Kyushu University



九州大学の沿革



- 1867(慶応 3) 黒田藩医学校 賛生館
- 1877(明治10) 福岡病院
- 1903(明治36) 京都帝国大学福岡医科大学
- 1911(明治44) 九州帝国大学 医科大学、工科大学
- 1919(大正 8) 医学部、工学部、農学部
- 1924(大正13) 法文学部
- 1939(昭和14) 理学部
- 1947(昭和22) (旧制) 九州大学
- 1949(昭和24) (新制) 九州大学 文学部、教育学部、法学部、経済学部
- 1964(昭和39) 薬学部
- 1967(昭和42) 歯学部
- 2001(平成13) 21世紀プログラム
- 2003(平成15) 芸術工学部(九州芸術工科大学と統合)
- 2004(平成16) 国立大学法人 九州大学

2011年に100周年

九州大学の概要

- ◆ 東京大学、京都大学、東北大学に続く
4番目の帝国大学(1911年)
- ◆ 学部学生数: 11800名 (内留学生 140名)
 - ◆ 11学部+1プログラム
 - 文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、
医学部、歯学部、薬学部、工学部、芸術工学部、
農学部、21世紀プログラム
- ◆ 大学院学生数: 6800名 (内留学生 1160名)
- ◆ 教職員数: 6900名

「林 篤裕」とは?

- ◆ 専門: 統計学、教育工学、高等教育
- ◆ 大学入試センター 研究開発部 (13年)
 - ◆ 1996年5月～2009年3月
- ◆ 九州大学 高等教育開発推進センター & アドミッションセンター (2ヶ月)
 - ◆ 2009年4月～
- ◆ 高大接続に関する訪問調査(2008年)
 - ◆ 韓国(3回)、台湾(1回)
- ◆ 上記の経験を元に報告する

5

与えられた命題 (アウトライン)

0. 韓国と日本の共通点/相違点
1. 日本の大学入試制度、特にAO入試について
2. 九州大学の入試制度、特にAO入試について
3. 韓国にAO入試を導入する際の考慮点

6

0. 韓国と日本の共通点/相違点

◎共通点

- ◆ 全入時代
 - ◆ 日本の収容力 9割超
- ◆ 少子化
- ◆ 学力低下、理数離れ
- ◆ 共通試験あり
 - ◆ 大学修学能力試験(CSAT)/大学入試センター試験(NCT)
- ◆ 試験問題の再利用は不可
 - ◆ 日本は一部緩和の方向
- ◆ 進学率が高い
 - ◆ 韓国がより高い
 - ◆ 日本は54%、韓国は8割超?
- ◆ 学歴偏重
 - ◆ 日本はやや緩和
- ◆

◎相違点

- ◆ 入試期間
 - ◆ 韓国: 8ヶ月(7月～2月)
 - CSATは11月、3月入学
 - ◆ 日本: 5ヶ月(11月～3月)
 - ただし、AOは8月から
 - NCTは1月、4月入学
- ◆ 国の関与
 - ◆ 日本では私立大学は統制し難い
 - ◆ 日本の多くの私立大学は独自の試験で入学者を決定
- ◆ 二次試験(個別学力試験)
 - ◆ 日本は二次試験にも筆記試験を含めて課す(特に国公立大学)
- ◆ 一カ所(ソウル近郊)に集中
- ◆

7

1. 日本の大学入試制度、特にAO入試について

◆ 入試方法: 主に3種類

◆ 一般入試

- 国立大学ではこれを2つに分割:
 - 前期日程 (2月25日、26日)
 - 後期日程 (3月12日)

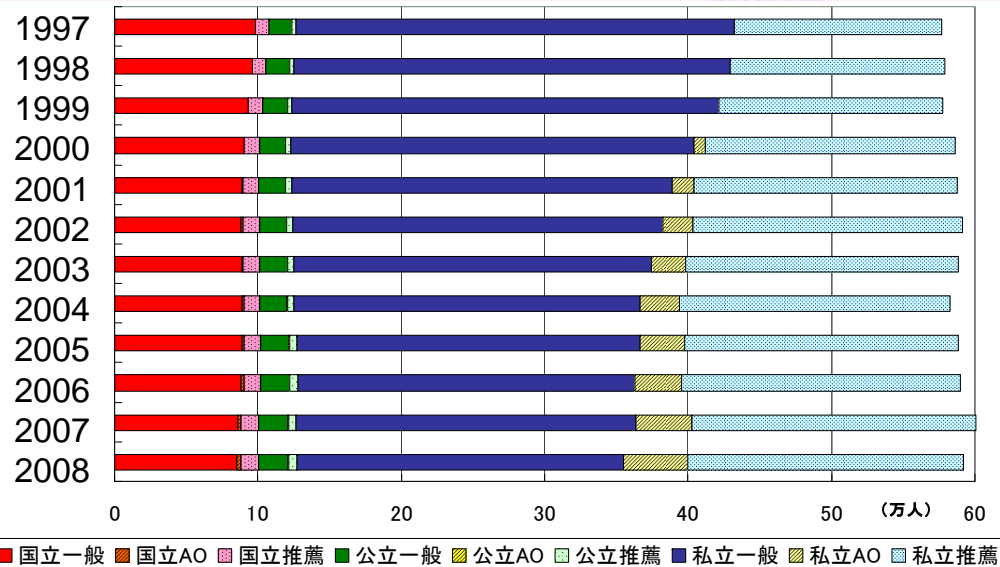
◆ 推薦入試

◆ AO入試

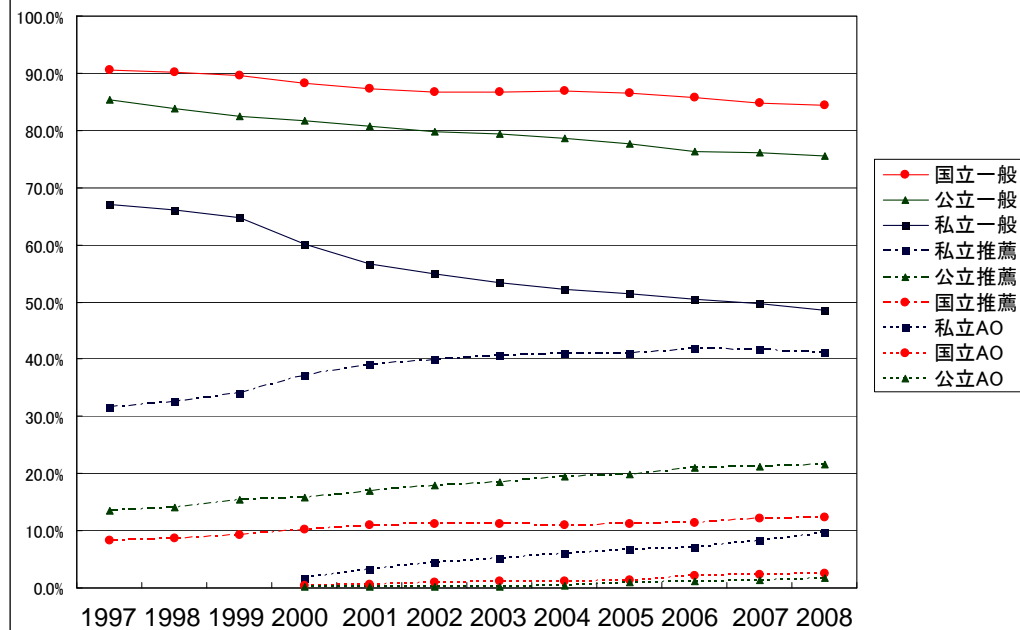
◆ 他には、帰国子女、社会人、留学生等

8

国公立大の選抜区分別入学者数



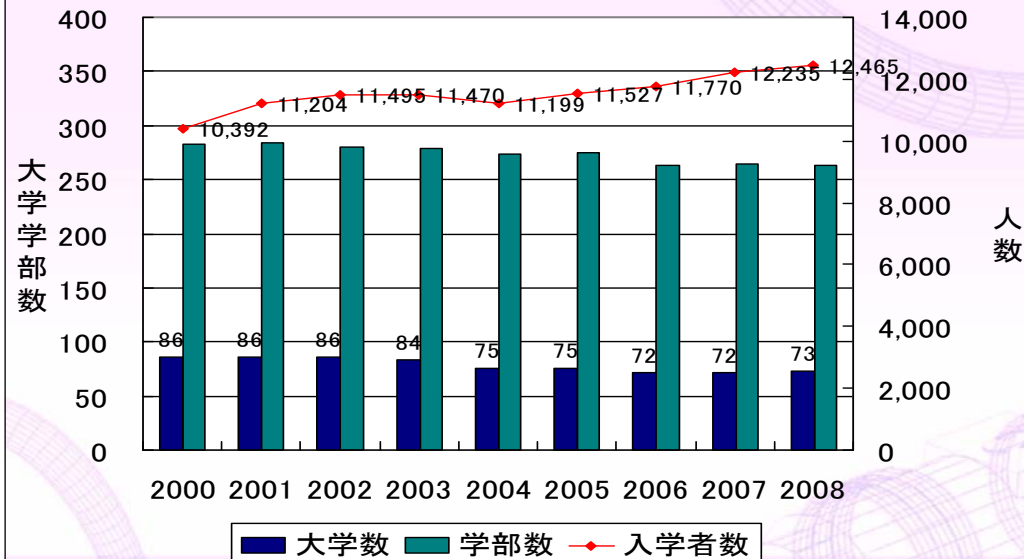
国公立大別入学者の選抜区分別割合の推移



日本のAO入試

- ◆ 国公立大学と私立大学とで全く異なると考えてよい
- ◆ アメリカのAO入試とも異なる
 - ◆ 主に事務員(Officer、not 教員)が関与
 - ◆ この中にもいくつかのタイプがあるのかもしれないが
- ◆ AO入試: 同じ名称だが、3つとも違ったものである
 - ◆ 「日本の国公立大学」のAO入試
 - ◆ 「日本の私立大学」のAO入試
 - ◆ 「アメリカ」のAO入試
- ◆ 今回は「国立大学のAO入試」を中心に紹介する
 - ◆ 私立大学には定員を埋めることを目的にAO入試を実施している大学が少なからず存在する
 - 隠語: AO=All Okay?

国立大学の推薦入試の推移



日本におけるAO入試の導入

AO = Admissions Office

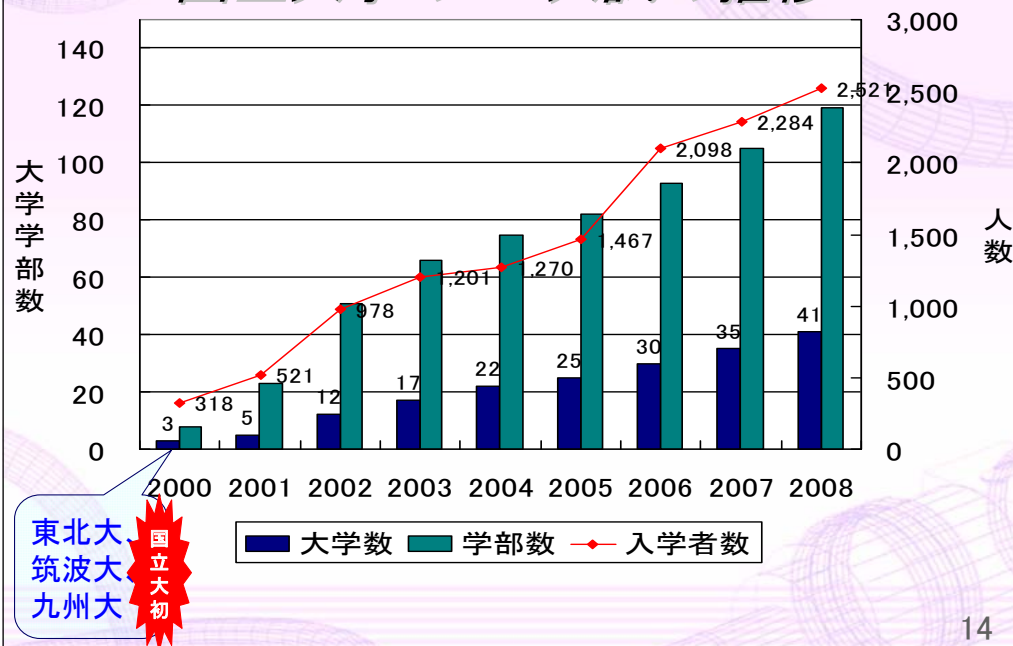
アメリカの大学で入試業務を担当する組織

詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、受験生の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する方法（文部科学省）

| | | | |
|------|-----------------------------|---------------|-------|
| 1990 | 慶應大学湘南藤沢キャンパス(SFC) | | |
| 1997 | 中央教育審議会第二次答申(6月) | | |
| 1999 | 国立3大学(東北、筑波、九州)にアドミッションセンター | | |
| 2000 | 70余大学が実施(AO入試元年) | | |
| 2009 | 国立 | 43大学(全82大学) | 52.4% |
| | 公立 | 20大学(全74大学) | 27.0% |
| | 私立 | 457大学(全566大学) | 80.7% |
| | 合計 | 520大学(全722大学) | 72.0% |

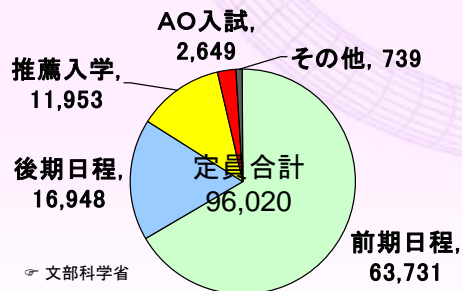
前年から +2大学
前年から +2大学
前年から +25大学
前年から +29大学

国立大学のAO入試の推移



国立大学のAO入試の現状

| 項目 | 数 | 割合 |
|------|-------|-------|
| 大学数 | 43 | 52.4% |
| 学部数 | 126 | 33.4% |
| 募集人員 | 2,649 | 2.8% |



※2000年(導入年)の318名から8.3倍

文部科学省

実施43大学 (新規3大学)

| 実施43大学 | 廃止 |
|--------|----|
| 北海道 | 一橋 |
| 秋田 | |
| 千葉 | |
| 金沢 | |
| 三重 | |
| 島根 | |
| 九州 | |
| 琉球 | |
| 北海道教育 | |
| 山形 | |
| 東京工業 | |
| 福井 | |
| 京都工芸繊維 | |
| 岡山 | |
| 佐賀* | |
| 旭川医科 | |
| 福島 | |
| 東京海洋 | |
| 山梨 | |
| 大阪 | |
| 広島 | |
| 長崎 | |
| 弘前* | |
| 筑波 | |
| お茶の水女子 | |
| 信州 | |
| 神戸 | |
| 山口 | |
| 大分 | |
| 岩手 | |
| 筑波技術 | |
| 横浜国立 | |
| 静岡 | |
| 奈良女子* | |
| 愛媛 | |
| 鹿児島 | |
| 東北 | |
| 宇都宮 | |
| 富山 | |
| 名古屋工業 | |
| 鳥取 | |
| 高知 | |
| 鹿屋体育 | |

白抜きはACかAO等を設置 / *は新規

国立大入試の外形的定義

| | 一般入試 | 推薦入学 | AO入試 |
|--------|-------|-------------|--------------|
| 受験資格 | 高校卒業 | ほとんど現役のみ | 現役とは限らない |
| 推薦 | 不要 | 学校長による1人1推薦 | 受験生の自己出願 |
| 定員比 | 前期/後期 | 5割まで | 推薦と併せて5割未満 |
| 入学義務 | 制約なし | あり | 課す場合は大学の責任で |
| 実施時期 | 2、3月 | 11月以降に募集・実施 | 特に規定なし |
| 指定校等 | なし | 大学によって異なる | 大学によって異なる |
| センター試験 | 課す | 課す / 課さない | 課す / 課さない |
| 選抜方法 | 学力検査 | 小論文、面接など | 他に、面談、講義とか多様 |

国大協が取りまとめ、入試センターを介して実施

国大協と高等学校校長会との取り決めによる

特に制限がない選抜で、全ては実施大学の責任で

2010年からガイドライン8月以降に募集

なぜAO入試？

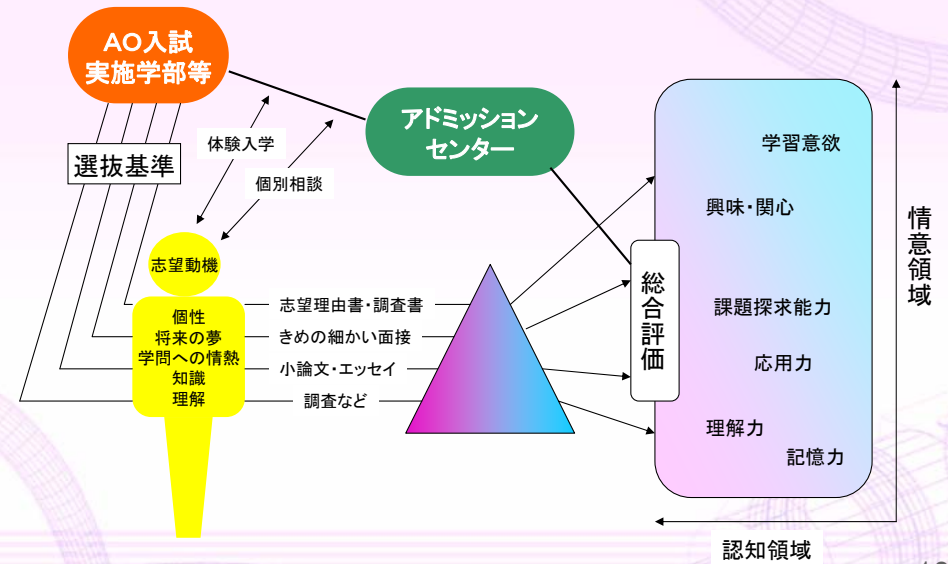
正解がある教科・科目の筆記試験だけでは測れないような、

- 学力・能力
- 意欲・関心・やる気
- 適性(アドミッションポリシーとの適合)

などを、本人を直接見ることによって測り、総合的な評価により選抜したい。

間接的には、
受験生に大学をよりよく知ってもらったり、
進学への決意を固めてもらうことにもなる。

アドミッション・オフィス入試とは？



AO入試の(様々な)評価パターン

学力+意欲・関心 【選抜型】

国立大学や
総合大学に多い

小論文、面接など
学力検査に代わる総合問題

一芸・一能/ワンポイント

資格、表彰などを重視
スポーツ系の実技試験など

主に
体育系など

大学の立場と
求める学生像
によって
実に様々...

相互理解 【対話型】

事前面談によるお見合い
おおむね実施時期が早い

私立大学や地方・
単科大学に多い

選抜方法【選抜型】

学力・能力など

意欲・適性など

1次選抜 書類審査

調査書

志望理由書(自己推薦書)

活動報告書

2次選抜 選抜試験

小論文、課題試験

面接

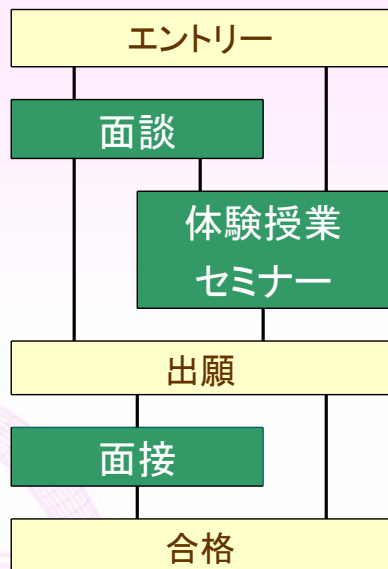
講義・セミナー、レポート

(個人/集団)

発表、討論

センター試験

選抜方法【対話型】



- ◆ 受験生と大学との双方向のコミュニケーションにより選抜
- ◆ 大学としては学力、意欲・適性・人物を総合的に見る
- ◆ 選抜期間は一般的に長期にわたる
- ◆ 各種の枠などもある
- ◆ 早期の学生確保の狙いが強い大学も

AO入試への期待と結果

| 期待する資質・能力 | | 入学後の発揮 | |
|-----------|------------|--------|------------|
| 1 | 探求心 | 1 | リーダーシップ力 |
| 2 | コミュニケーション力 | 2 | コミュニケーション力 |
| 3 | 論理的思考力 | | 言語表現力 |
| 4 | 言語表現力 | 4 | 探求心 |
| | リーダーシップ力 | 5 | 判断力 |

一般選抜入学者と比較して

| 優る | | 劣る | |
|----|------------|----|----------|
| 1 | コミュニケーション力 | 1 | 基礎学力 |
| 2 | リーダーシップ力 | 2 | 語学力 |
| 3 | 探求心 | 3 | 幅広い知識・教養 |

（株）ベネッセコーポレーション 大学まるごと調査第6回
2006年度AO入試実施国公立28大学調査

AO入試の＋と－

受験生・高校

大学

| ＋（長所） | ＋（長所） |
|------------------|-------------------|
| 学力以外の資質も見てもらえる | 大学に必要な資質を見る |
| 大学・学部をよく知って入学できる | 丁寧に選抜できる |
| 大学生活を模擬体験できる | 意欲・関心の高い学生を早く得られる |
| 大学・学部への適合率が高い | 直接受験生と接することができる |
| －（短所） | －（短所） |
| どう指導して良いか難しい | 手間暇がかかる |
| 評価・判定の基準が判り難い | 基礎学力を測るのが難しい |
| 落ちた場合を考えるとリスクである | 他人の知恵が入っているかも |
| | 対策への対策の工夫をどうするか |

AO入試のこれから

AO入試とは

AO入試に問われるもの

| | |
|------------|-------------|
| 学力以外も見ると選抜 | 審査委員の美学・審美観 |
| 生徒の自己出願 | 平等性、公平性、客観性 |
| 大学によって様々 | 透明性、公開性 |

AO入試はさらに拡大と見直しの方向

国立大の入試制度改革

国大協の2006年度以降のガイドライン

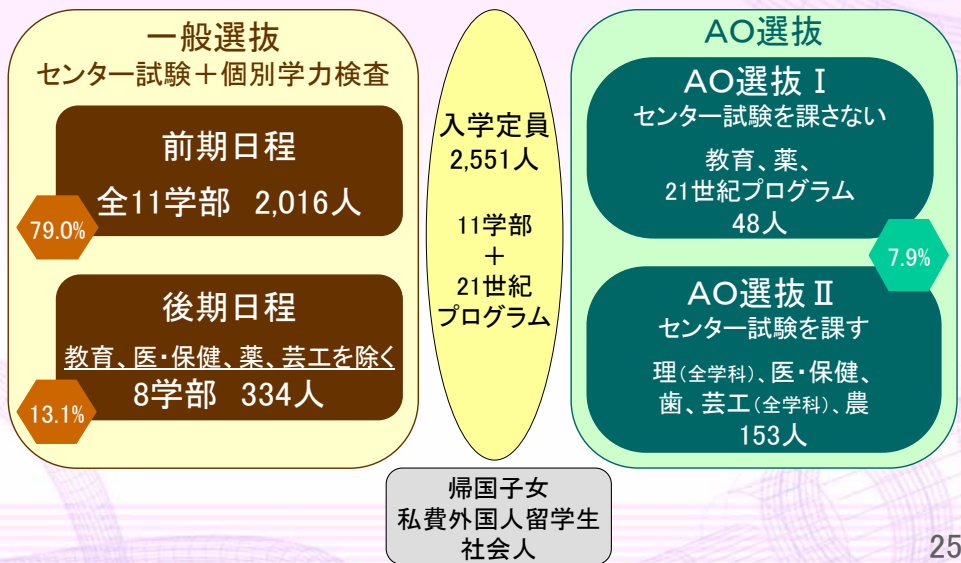
特別選抜（AO/推薦）をやれば前期 or 後期を廃止してもよい

少子化・大学全入時代

面談等によって早期に学生を確保

2. 九州大学の大学入試制度、特にAO入試について

2010年度(平成22年度) 入学者選抜 (予定)



九州大学AO選抜 基本的な枠組み

2000年度から、東北大・筑波大と共に国立大初のAO入試としてスタート

正式名称

アドミッションオフィス方式(総合評価方式)による選抜(略称:AO選抜)

全学委員会で実施

全学への透明性を確保

認知領域と情意領域を評価

学部の主体性を尊重

アドミッションポリシーにより選抜方法は学部によって異なる

(主に)推薦入学からの移行

小論文や面接などのノウハウの蓄積がある

指定校・推薦枠は無い

情意領域
意欲や関心

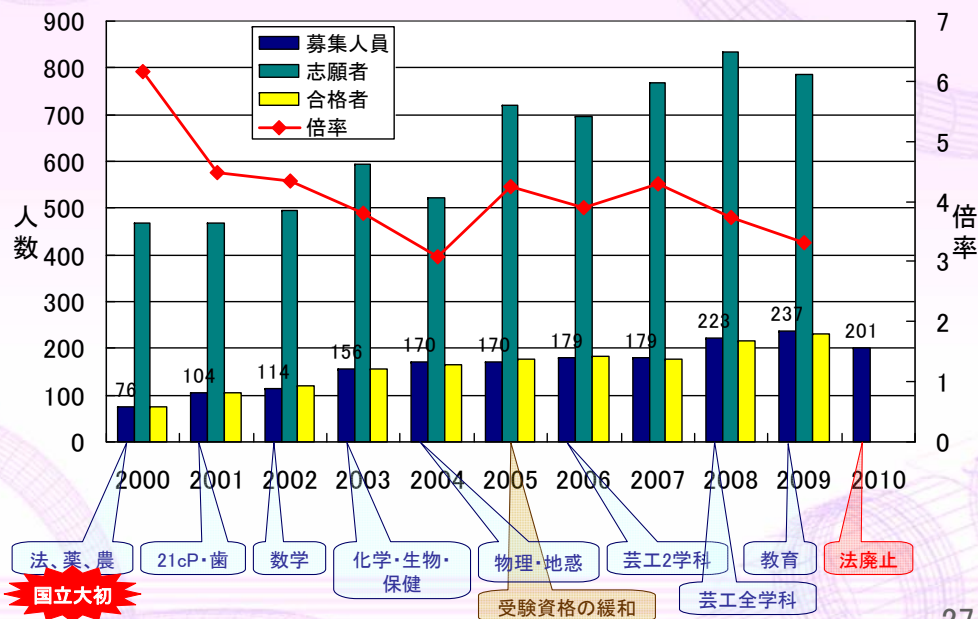
適性 学習意欲 責任感
誠実性 協調性

総合評価

認知領域
基礎的な学力

問題発見能力
論理的思考力
表現力 理解力 応用力

九州大学AO選抜 志願者数の推移



九州大学AO選抜 2010年度AO選抜 (予定)

| | | |
|-------|----|---|
| 文学部 | | |
| 教育学部 | ★ | 10 |
| 法学部 | 廃止 | |
| 経済学部 | | |
| 理学部 | | 物理 10 化学 15 地球惑星 10 数学 8 生物 5 |
| 医学部 | | 医学 生命科学 看護 9 放射線 6 保健 6 検査 6 |
| 歯学部 | | 8 |
| 薬学部 | ★ | 創薬科学 6 臨床薬学 6 |
| 工学部 | | 環境設計 10 工業設計 15 |
| 芸術工学部 | | 画像設計 18 音響設計 5 芸術情報設計 8 |
| 農学部 | | 20 |

21世紀プログラム ★ 26

7+1学部 19募集区分
総募集人員 201名

定員の
7.9%

★: センター試験を課さない

九州大学AO選抜 **選抜方法**

実施学部等のアドミッションポリシーにより異なる

小論文 (理を除く学部学科で実施)

正解のない課題

資料の理解力や論理的思考力・表現力を見る

課題探求試験 (理)

簡単な実験を行って考察する (物理・地惑)

数学的思考力が問われるやや難しい問題 (数学)

面接等 (全ての学部学科で実施)

個人面接 and/or 集団面接 (法、医・保健、歯)

午前に小論文 or 課題探求試験があればその試問

29

九州大学AO選抜 **評価(追跡調査等)**

意識

入学時の目的意識が高い

学部への適合率が高い (ミスマッチが少ない)

大学発信情報 (オープンキャンパス等) の利用が高い

学業成績

学部・科目によって異なるが、
総じて一般選抜入学生とほぼ同等程度

卒業研究指導教員による評価

過去数年の平均的學生を3としたとき、
AO入學生は平均で4 (5点満点の評価)

30

21世紀プログラム **教育の枠組み**

2003年度 文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択



幅広い教養、表現力、国際性を身につけ、チューターの指導を受けつつ、
いろいろな学部の専門を組み合わせる「自分だけの専門」を創る。

31

21世紀プログラム **第2次選抜**

第1日目 (土曜日)

9:30-11:30 **講義1・レポート1 (120分)**

軸が違う3テーマ
講義: 約50分
レポート: 約70分

12:30-14:30 **講義2・レポート2 (120分)**

15:00-17:00 **講義3・レポート3 (120分)**

講義や資料に
英語を含むことがある

第2日目 (日曜日)

9:00-11:30 **討論 (150分)**

グループで実施
3つの講義に関
する討論

12:30-17:00 **小論文 (270分), 面接**

討論と同じグ
ループ (15分/人)

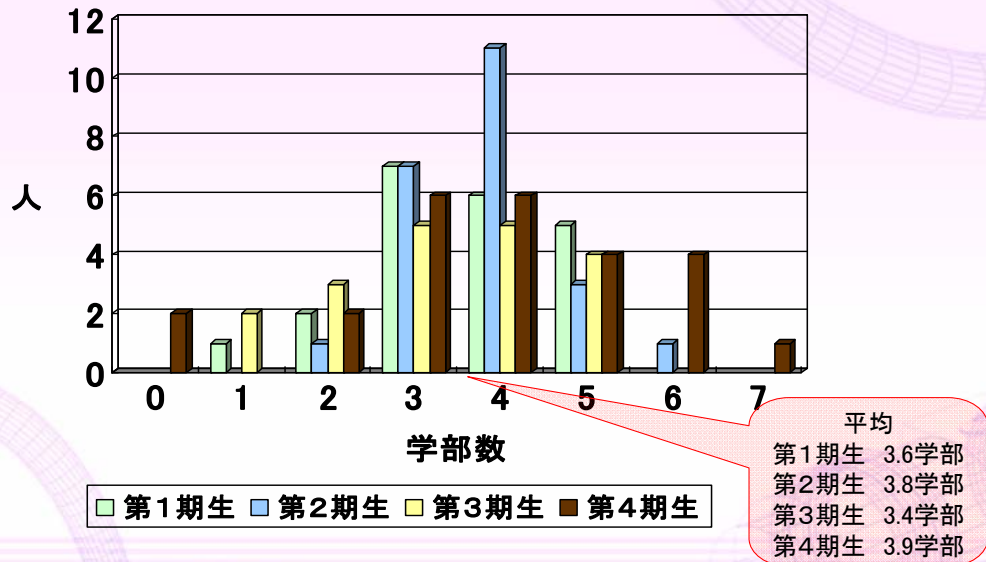
3つの講義のいずれかに関
連するテーマを設定して作成

随時別室で休憩できる

32

21世紀プログラム 履修学部数

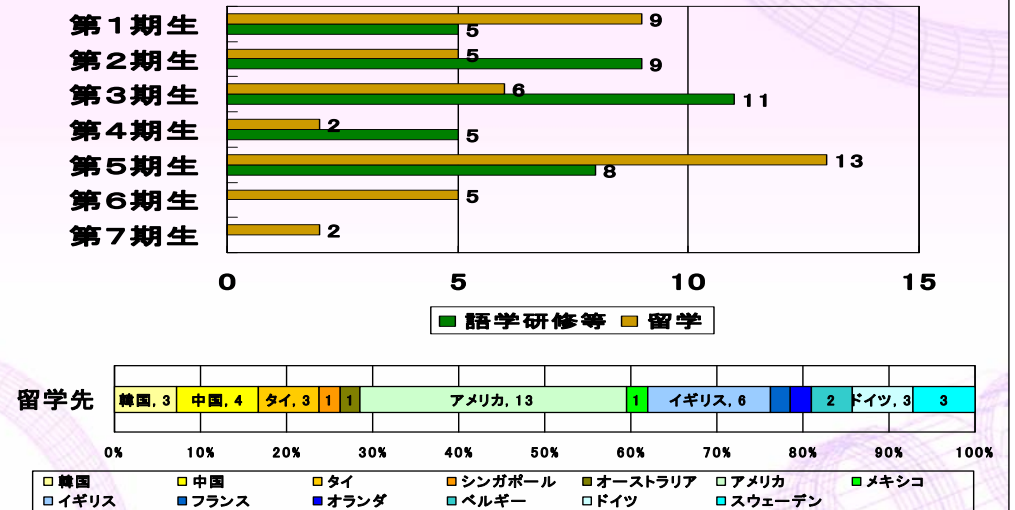
単位取得学部数



21世紀プログラム 留学・語学研修等

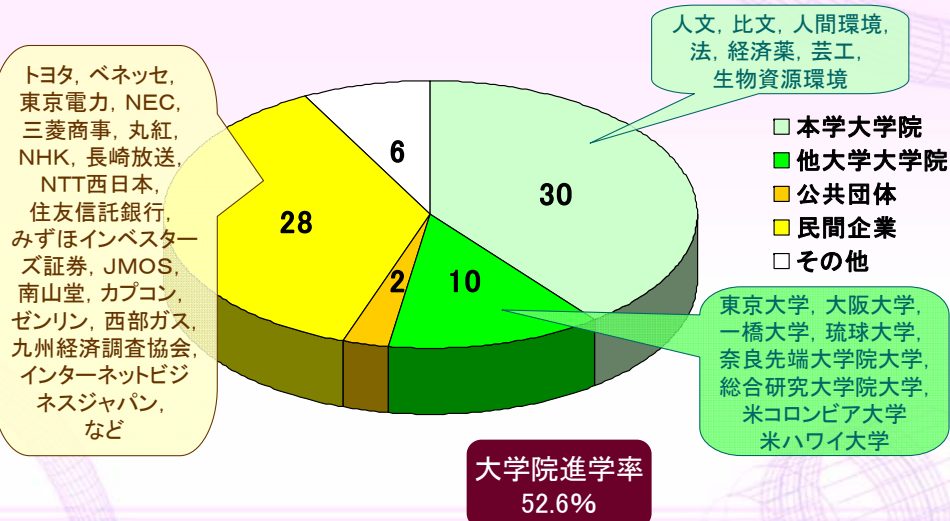
人数 (延べ人数)

2008/4



21世紀プログラム 卒業生の進路

卒業した第1期生21名, 第2期生23名, 第3期生16名, 第4期生16名, 計76名



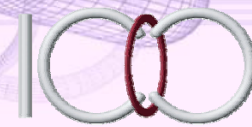
3. 韓国にAO入試を導入する際の考慮点(私見)

- ◆ 大学修学能力試験を進学者全員に課す
 - ◆ なるべく多くの科目を課す: 日本では5教科7科目を推奨
- ◆ 大学修学能力試験の規模を軽減化
 - ◆ 科目は英語、数学、国語(韓国語)だけに絞っても良いのではないか
 - ◆ 不足する科目は各大学で実施、もしくは、科目数を減らす
- ◆ 入試期間を短くする
 - ◆ 高校の教育時間を長く取る
- ◆ 二次試験に筆記試験を課す
- ◆ 「(一部の)日本の私立大学のAO入試」はお奨めしない
- ◆ 「万能の入試方法」はない。常に改良が必要。

与えられた命題 (アウトライン)

0. 韓国と日本の共通点/相違点
 1. 日本の大学入試制度、
特にAO入試について
 2. 九州大学の入試制度、
特にAO入試について
 3. 韓国にAO入試を導入する際の考慮点
- 日本の経験や我々の講演が、
多少なりとも参考になれば幸いです

37



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の世紀を拓く



「日本のAO入試と 九州大学の事例」

들어 주고 감사합니다(?)

Thank you for your attention
ご清聴 ありがとうございます

林 篤裕 (Atsuhiko Hayashi)

九州大学 高等教育開発推進センター
& アドミッションセンター
(21世紀プログラム基幹教員)

e-mail: hayashi@rche.kyushu-u.ac.jp

住所: 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

Tel: 092-642-4489 / Fax: 092-642-4485



38